

ぽんふぁーず



ケイコちゃん

また

帰って来たの

ちよつと待て

何

その言い方

...

?

!

髪

切ったね

!

うん

ママ

お帰り

パパも

あら

また帰って来たの

ちよつと

何それ

ケイコちゃんは



僕に

いっぱい

キスをしてくれます

キスをする前に

僕の耳や

顔を

いつも

やさしく

舐めてくれて

それが

すごく

気持ち良くて

思わず

声が

出そうになると

そのタイミングを

待っていたかのように

唇を重ねてきて

そのままゆっくりと

舌を入れてきます

ケイコちゃんの

舌と唾液で

僕の口の中は

いっぱいです



ケイコちゃんは

嬉しそうに

その舌を吸い返してきて

...



必死になって

自分からも

舌を出すと



はい



だよ

そうだよね

飲めるよね

...



お口

開けて

そう

飲んで...



そう

だよ

おっぱいは

そんなに好き?

おっぱい
好き?

サトシの方から

欲しかったもんね

それは

本当です



好き

うん



うん

なる

おっぱい

欲しくなる?



そう

そうだよ

それが

普通だよ

欲しくなるよ

ここで

っ少



フフ

いいよ

いっぱい

舐めて

お話を

過去に

遡らせて
ください

サトシ

家の子に
なるの？

ケイコは

サトシ君より

ずーっと

年上なんだから

ちょっと

そうだぞ

だから
ちゃんと

ずーっと

だけ余計！

でも本当じゃない

そうです

僕は

ケイコちゃんの

本当の弟

ではないんです

もお！

ハハハ

今でも

ケイコちゃん
のことを

お姉ちゃん

とは

呼ばずにいる

というわけです

その日の夜

サトシ

入って

いい？



！



ケイコちゃん

どうしたの？



パパと
ママ

あれ

始めちゃったの

ここぞ

寝かせてよ



うん

いい

けど



でもさ

おじさんと
お婆さん

仲がいい
って

ことだよ

だからさ



僕

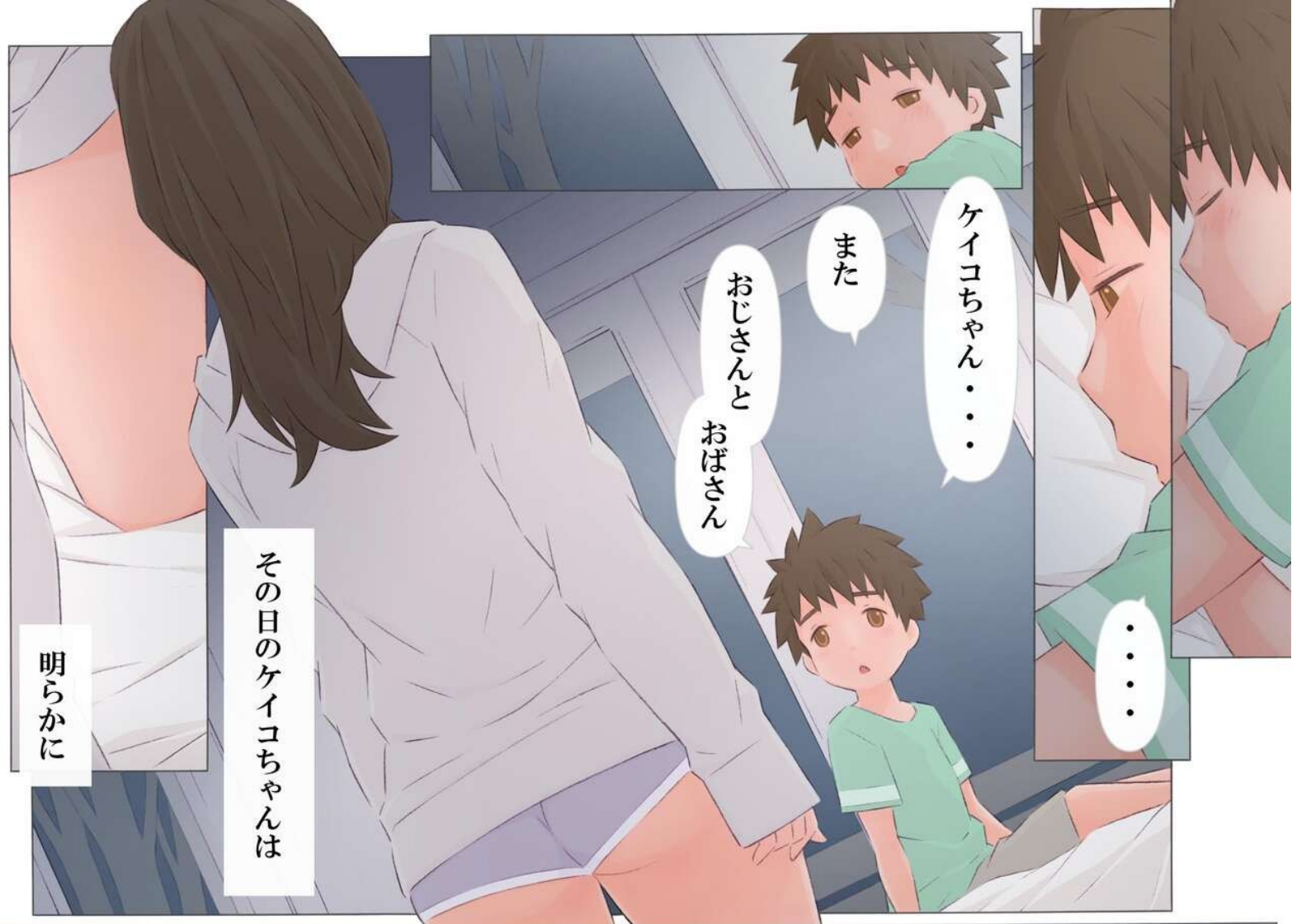
！

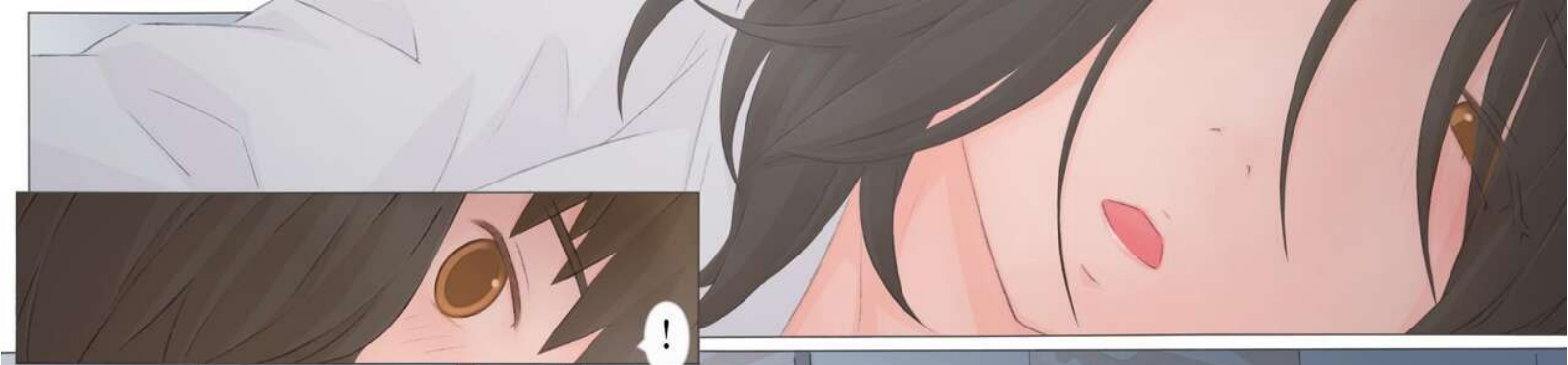
そんな事が

…
…
…

何日か続いた

ある日





お話を

元の時間に

戻しますね

サトシ

ごめん

眠くなつて

きちゃった

もっと

おっぱい

欲しかった？

ケイコちゃん

すごく

いい匂い...

うん

ごめんね

お姉ちゃんから

誘ったのに

私...

悪い女だね

え

フフ♥

そう...

...

うん

一週間後

じゃあね

ケイコ

またね

うん

また



勉強中？

本
読んでるの？

好きだね

これよりも

本

好き？

...

サトシ

今日来てた

お姉さん達の中で

だよね♡

そうだよね♡

いらないよね

そんな人

こういうこと

してみたい人
いた？

なんで

そんな事
聞くの

いない

サトシ

おちんちん

舐めてあげる

フェラチオ

してあげる

この時

僕は

え

あ

えっと

少し戸惑うような

態度をとったけれど

本当は

う

うん

して

欲しい

かな

恥ずかしい？

ううん

平気

嬉しくて

仕方ありませんでした

あ……

ケイコちゃんの舌が

僕の

僕のアそこに

触れた瞬間の

感覚を

どう

表現したら

いいのか

……



あつと言う間に

一週間が過ぎて

サトシ

ケイコちゃんは

帰って来ました

いつものように

ただいま

うん

お帰り





ごめんね

お姉ちゃん

いつも

自分勝手に

そして

その日

すごい♡

かたあい♡

気持ちいい？

いやらしい子だな♡

だ

だって

セックス

しよ

サトシ

ベッド

行こ

僕は

ケイコちゃんと

うん

気持ちいい

ドキ

ドキ

早く！

サトシも

脱いで

そうだね

ご
ごめ

本当に

あ

もう♡

脱がせて
あげる♡

夢のような

初めての

セックスをしました

それは

本当に

おっきい・・・

この前より

おっきいかも

え

そう

なの

時間でした
・・・

う

うん





そんな事言って

女の人なら誰でも

良かったんじゃない？

違うよ！

僕は

僕は

ケイコちゃん

だけ



ほんとう？

嬉しいよ

ご褒美♡

嬉しい？

うん

嬉しい

・・・

サトシ



入れちゃう♡

どうして

僕は



こんなにも

え

あ

ケイコちゃんの
事が



あ・・・

あ



大好き

なんだろう

ケイコ

ちゃ

あ...

あ

あ♡



フフ♡

入った♡

入れちゃった



いきそうになったら

イっていいよ

そのまま

イっていいから

わかった?

お姉ちゃんが

気持ちよく

してあげるから



今は

ただ

った

うん

わか



ダメよ

気持ち良くても

おっきい声

出しちゃダメよ

いい？

う

うん



この
幸せな時間が

わかった

フフ

いい子ね

ほんと
私



なんで

元気

なくなったね



もう
元気になった
……
お姉ちゃんの触り方
どう?



え
気持ち
良くなかった?
そんなこと
ない
ないよ



ほんと?
初めて
だもんね



キス
しょ♡
うん



キス好き?
うん
あっ



仕方ないか♡
永遠に
気持ちは
いいんだね
あ…
ケイコ
ちゃん…
キス好き?
うん
あっ
キス好き?
うん
あっ
キス好き?
うん
あっ



何も

考え

られなく

なる

...

今度は

中で出せるかな

もう一度

してみる?

うん

その前に

お姉ちゃんの事も

気持ち良くしてみて

どう

するの?

教えてあげる

ここを

...

フフ

手なら

イケたね

気持ち良さそうな顔

飲んじやった♡

あぁ

っついで

また

しばらくの間

こっちに・・・

っていうか

帰って

くるかも

はい

どうぞ

いつでも

帰ってきて

それよりも

ケイコ

サトシのこと

あの子

まだ

友達もないみたいだし

心配になっちゃって

だから

お願いね

ケイコ

仲良く

してあげて

どうしても

パパとママ

じゃ

・・・

・・・
大丈夫

大丈夫だよ
ママ

安心して

私達

とっても

仲が

いいの

その夜

私達は

また

愛し合った

なあに？

くすぐったい？

可愛い……

じゃあ

これは？

フフ

これは

どうかな？

あっ……

気持ち

いい

……

サトシの反応が

少し

うん

うん

それ

好き

サトシ

...

おいで

入れて

なんて

素直なの

うん

あっ

えっと

だから

お姉ちゃんが

手伝って
あげる

あ

優しく

してあげたく
なる

あ...

あ

そう

そのまま

...

ゆっくり

そう

ほら♡

お姉ちゃんが

上に

なるっか？

入ったあ

出来る？

動いてみて

大丈夫

でき

る

そう

あ♡

そう♡

いいよ……

ケイコちゃん

僕

ケイコちゃんとかう

なりたかった

ずっと

前から

オナニーする時も

ケイコちゃんの事

考えてた

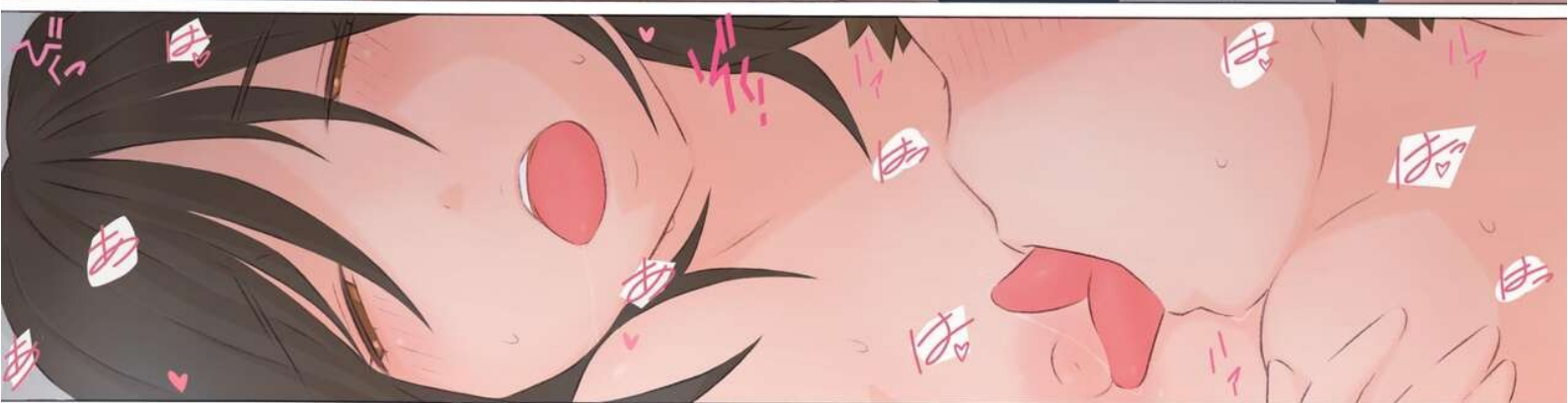
なによ

その告白

もう♡

笑っちゃう















おはよ
♡

起こしちゃったかな

いつの間にか
寝ちゃってた
・・・

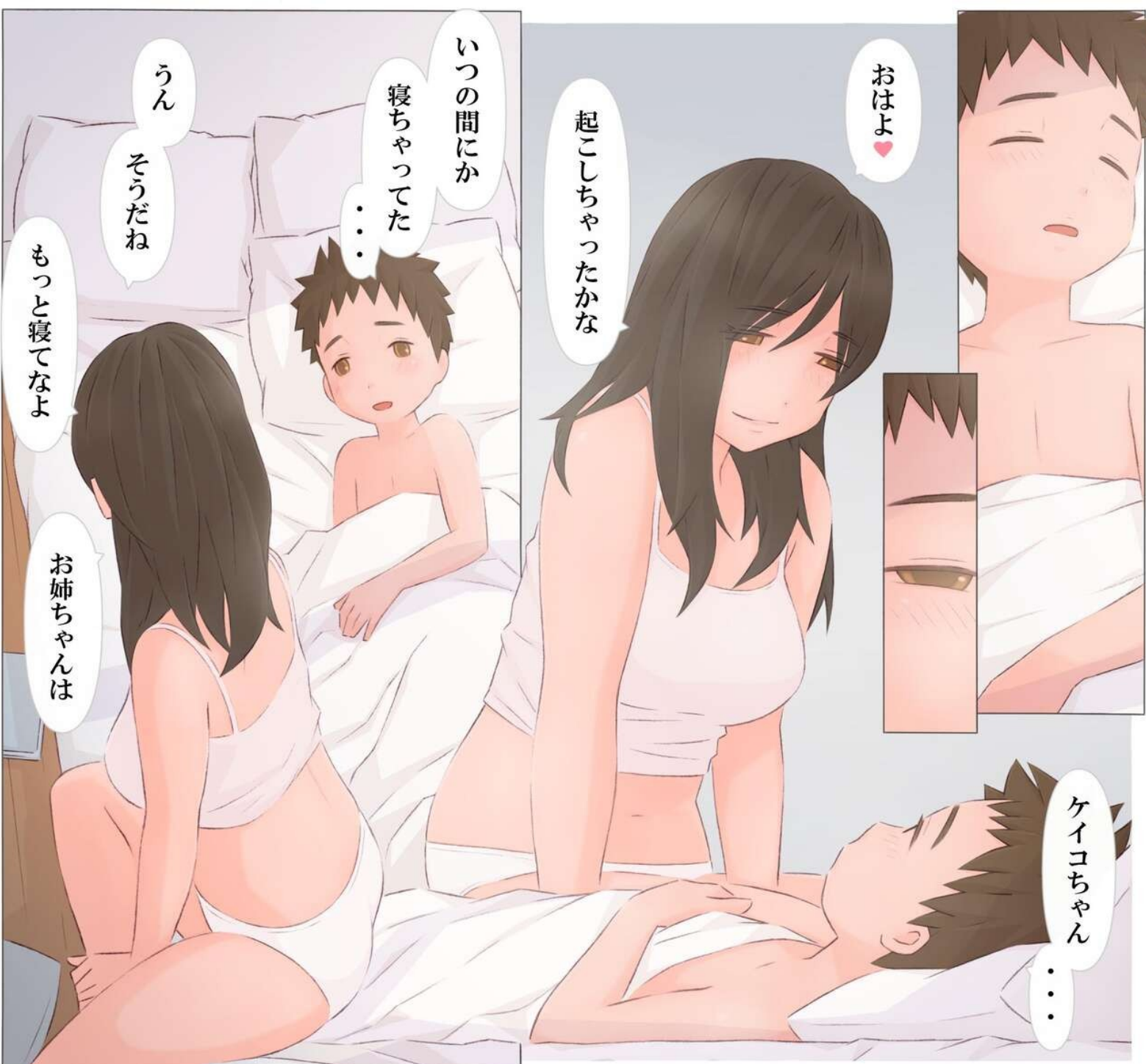
うん

そうだね

もっと寝てなよ

お姉ちゃんは

ケイコちゃん
・・・



だから

ごめんね

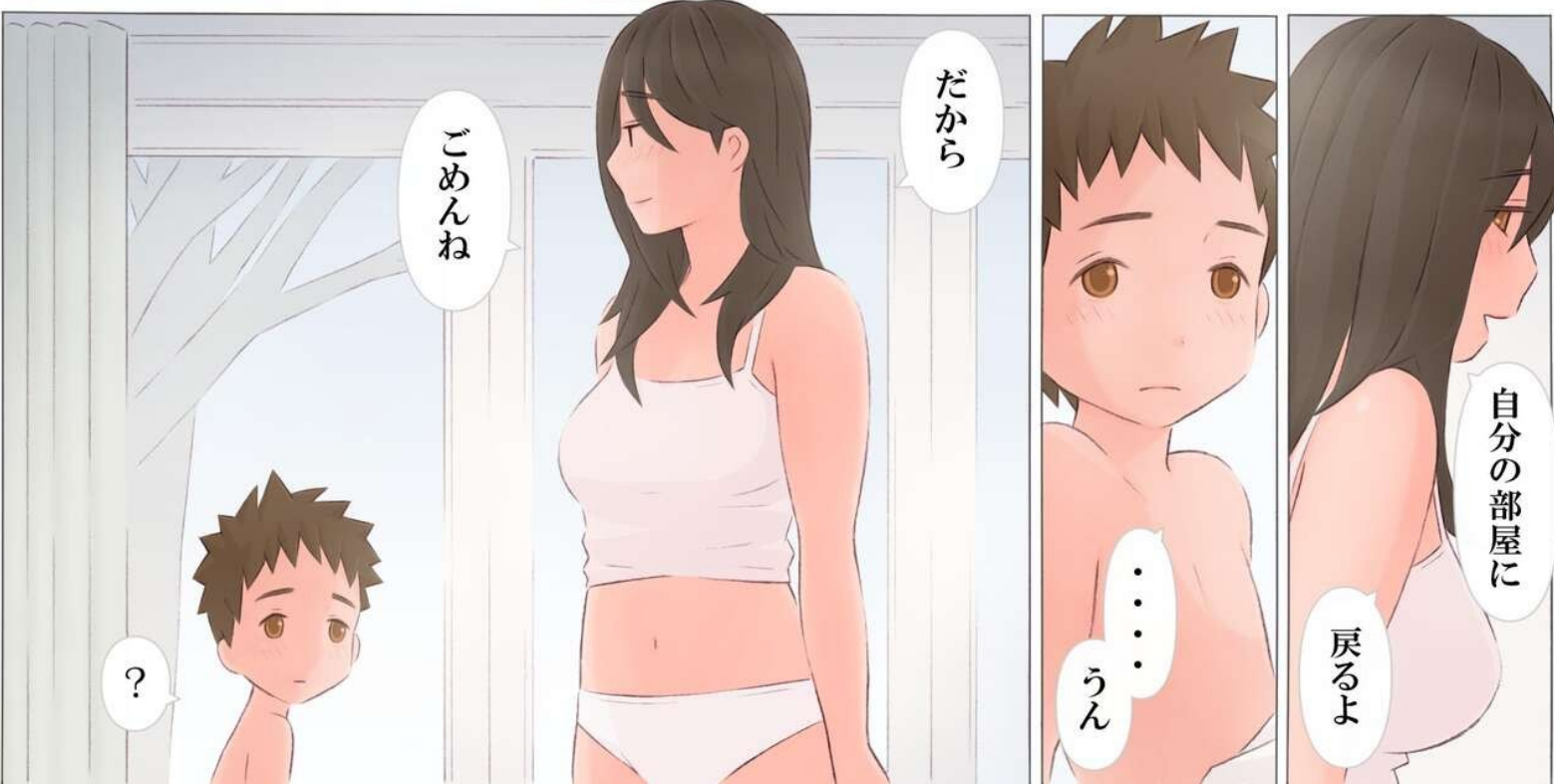
？

自分の部屋に

戻るよ

・・・

うん



その

おっきくなったおちんちん

自分でなんとかしてね

……

う

うん

サトシ

お姉ちゃんが

お姉ちゃんは

いいよ

手伝ってあげても

いいよ

どうする？

あ

……

どうするの

答えて

気持ちいい？

うん

気持ち

いい

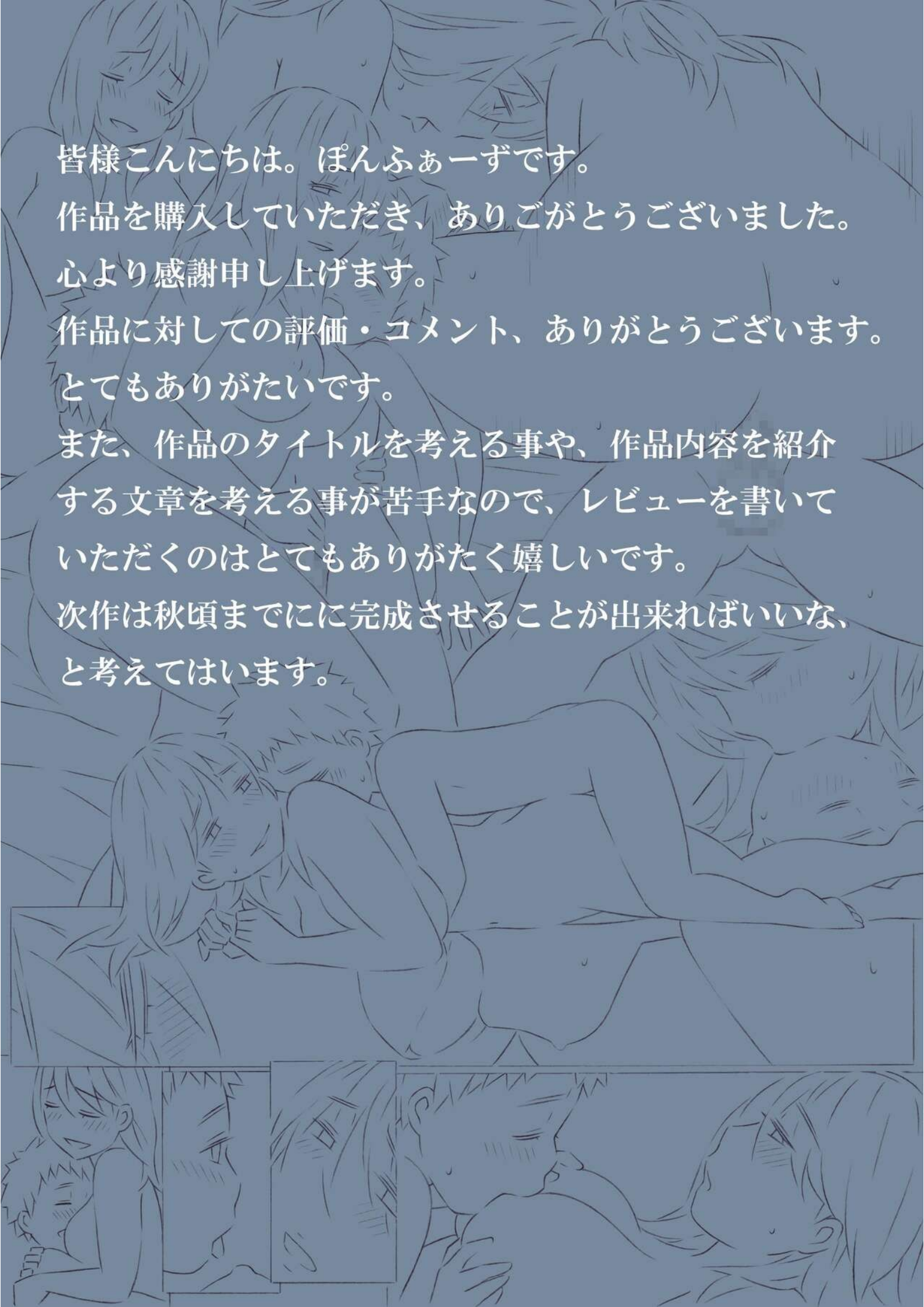
サトシ

……

しちゃおうか

……うん

END



皆様こんにちは。ぽんふあーずです。

作品を購入していただき、ありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

作品に対しての評価・コメント、ありがとうございます。

とてもありがたいです。

また、作品のタイトルを考える事や、作品内容を紹介する文章を考える事が苦手なので、レビューを書いていただくのはとてもありがたく嬉しいです。

次作は秋頃までに完成させることが出来ればいいな、と考えてはいます。